



す。しかし、その一番の要因は「情報には敏感だが、単純に流行には惑わされない。何よりも自らの判断を優先する」という価値観を持つ人が多いからなのではないでしょうか?「自分が好き!感動したものであれば、それが無名の作家であっても、それなりの対価を支払うことをためらわない。応援します」というスタンスです。

それは、自家焙煎珈琲にとまらず、伝統工芸の南部鉄器、陶芸、木工などのクラフト、さらには、街をフラワーバスケットで飾り、民間レベルでのイベント、市民活動がさりげなく、かつ多く行われているなど、盛岡を語る上ですべてのことに繋がっているように思えるのです。

それはすべてが本物の盛岡だから

「食は文化の源」であり「文化の集積」とも言われます。厳しい食環境の中、見た目の派手さではなく、真におもてなしの心を表現した「そば振る舞い」にルーツがあるという「わんこそば」。この地に暮らす人たちに共通する価値観の中で育まれてきた「盛岡の自家焙煎珈琲店」。さらに、「The New York Times」の中で紹介された街のたたずまい。豊かな自然環境…。これらもすべて観光のために作られた資源ではありません。まさにこの地でなければありえなかった本物の盛岡なのです。



※取材協力/盛岡タウン情報誌「アキュート」 盛岡近郊の自家焙煎珈琲店情報は「タウン情報誌アキュート」HPからご覧いただけます。